

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード



過剰流動性相場は息の長いテーマ

先週掲載の前回コラムで「過剰流動性相場は本物か?」と題し、「あまりの『樂觀ムード』には『思わぬ落とし穴』が潜んでいると思えてならない」とも記していたが、掲載後は欧州圏の債務懸念再燃、中国利上げ懸念と「上げ賛成ムード」に水を差すような弱気材料が表面化。想定していた「思わぬ落とし穴」が姿を現した。

株価指数が上値追いを強め、押し目買いも報われるような樂觀ムードのなか、やや弱気スタンスを示すには勇気の要ることだが、経験則から「やや出来過ぎの感」が強いと判断していた。弊社にも私の投資マニュアルを記した「リスク回避投資術」を中心に問い合わせが急増している。

さて、今後の投資戦略だが、前回も記したようにマーケットの「材料消化スピード」は思いのほか早い。これは強気材料にも弱気材料にも一貫している。とはいえ、金融緩和を切っ掛けとした過剰流動性相場は息の長いテーマとなり得る存在だろう。今後は押し目買いのタイミングを探るとともに「投資収益を効率的に伸ばし得る最適な物色対象」と選別する局面と見る。

弊社では「資金効率」での優位性に着目した「20万円以下で買える優良低位株のレポート」を販売。興味のある方は弊社に直接問い合わせしてほしい。